

第1回（平成16年度第1回）
厚生科学審議会感染症分科会感染症部会
エイズ・性感染症ワーキンググループ

平成17年3月7日（月）

13:00～15:00

厚生労働省共用第8会議室（6F）

議 事 次 第

1. 開 会

2. 議 題

- 1) 後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針の改正について
- 2) 後天性免疫不全症候群に対する発生動向調査の見直しについて
- 3) 性感染症に関する特定感染症予防指針の改正について
- 4) 性感染症に対する発生動向調査の見直しについて
- 5) その他

< 資 料 >

| | | |
|-----|--|-------------|
| 資料1 | エイズ・性感染症ワーキンググループ名簿 | P. 1 |
| 資料2 | 性感染症の概要について | P. 3 |
| 資料3 | 性感染症対策について | P. 11 |
| 資料4 | 性感染症およびHIV感染症に関する「特定感染症予防指針」に 基づく取り組み状況のアンケート結果（概要） | ... P. 15 |
| 資料5 | 後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針見直し 検討会の設置について | P. 25 |
| 資料6 | 後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針 | P. 31 |
| 資料7 | 後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針見直しの 考え方 | P. 39 |
| 資料8 | エイズ・性感染症WG検討方針 | P. 63 |
| 資料9 | 発生届出基準見直し（案） | P. 75 |

厚生科学審議会感染症分科会感染症部会エイズ・性感染症ワーキンググループ名簿

| | 氏 名 | 所 属 |
|---|---------|---------------------------|
| 1 | 池 上 千寿子 | NPO(特定非営利活動法人)ぷれいす東京代表 |
| 2 | 小野寺 昭一 | 東京慈恵会医科大学教授 |
| 3 | 北 村 邦 夫 | (社)日本家族計画協会常務理事・クリニック所長 |
| 4 | 木 村 哲 | 国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター長 |
| 5 | 白 井 千 香 | 神戸市保健所主幹 |
| 6 | 廣 田 良 夫 | 大阪市立大学大学院医学研究科教授 |
| 7 | 南 砂 | 読売新聞社編集局解説部次長 |

(50音順・敬称略)

性 感 染 症 の 概 要

1. 後天性免疫不全症候群 【五類感染症・全数把握】

《定義》

レトロウイルスの一種であるヒト免疫不全ウイルス (human immunodeficiency virus; HIV) の感染によって免疫不全が生じ、日和見感染症や悪性腫瘍が合併した状態

感染からエイズ発症まで通常約 10 年の無症候期がある。

感染症新法における発生動向調査においては、HIV 感染症を診断した時点から報告することが求められている。

《臨床的特徴》

HIV に感染した後、CD4 陽性リンパ球数が減少し、無症候性の時期（無治療で約 10 年）を経て、生体が高度の免疫不全症に陥り、日和見感染症や悪性腫瘍が生じてくる。

2. 梅毒 【五類感染症・全数把握】

《定義》

スピロヘータの一種である梅毒トレポネーマ (*Treponema pallidum*) の感染によって生じる性感染症である。

《臨床的特徴》

I 期梅毒として感染後 3～6 週間の潜伏期の後に、感染局所に初期硬結や硬性下疳、無痛性のそけい部リンパ節腫脹がみられる。II 期梅毒では、感染後 3 カ月を経過すると皮膚や粘膜に梅毒性バラしんや丘しん性梅毒しんなどの特有な発しんが見られる。

感染後 3 年以上を経過すると晩期顕症梅毒としてゴム腫、梅毒によると考えられる心血管症状、神経症状、眼症状などが認められることがある。なお、感染していても臨床症状が認められない無症候梅毒もある。

先天梅毒は、梅毒に罹患している母体から出生した児で、胎内感染を示す検査所見のある症例、II 期梅毒しん、骨軟骨炎など早期先天梅毒の症状を呈する症例、乳幼児期は症状を示さずに経過し学童期以後に Hutchinson 3 徴候（実質性角膜炎、内耳性難聴、Hutchinson 歯）などの晩期先天梅毒の症状を呈する症例がある。

3. 性器クラミジア感染症 【五類感染症・定点把握】

《定義》

Chlamydia trachomatis による性感染症である。

《臨床的特徴》

男性では、尿道から感染して急性尿道炎を起こすが、症状は淋菌感染症よりも軽い。さらに、前立腺炎、副睾丸炎を起こすこともある。女性では、まず子宮頸管炎を起こし、その後、感染が子宮内膜、卵管へと波及し、子宮内膜炎、卵管炎、骨盤内感染、肝周囲炎を起こす（しかし女性の場合、症状が軽く自覚のないことも多い）。また、子宮外妊娠、不妊、流産の誘因ともなる。妊婦が感染している場合には、主として産道感染により、新生児に封入体結膜炎を生じさせることがある。また、1～2 カ月の潜伏期を経て、乳幼児の肺

炎を引き起こすことがある。淋菌との混合感染も多く、淋菌感染症の治癒後も尿道炎が続く場合にはクラミジア感染症が疑われる。

4. 性器ヘルペスウイルス感染症 【五類感染症・定点把握】

《定義》

単純ヘルペスウイルス (HSV 1 型または 2 型) が感染し、性器またはその付近に発症したものを性器ヘルペスという。

《臨床的特徴》

性器ヘルペスは、外部から入ったウイルスによる初感染の場合と仙髄神経節に潜伏しているウイルスの再活性化による場合の二つがある。

初感染では、感染後 3～7 日の潜伏期の後に外陰部に小水疱または浅い潰瘍性病変が数個ないし集簇的に出現する。発熱などの全身症状を伴うことが多い。2～4 週間で自然に治癒するが、治癒後も月経、性交その他の刺激が誘因となって、再発を繰り返す。再発しんは外陰部のほか、臀部、大腿にも生じる。

病変部位は男性では包皮、冠状溝、亀頭、女性では外陰部や子宮頸部である。HSV2 型による場合はより再発しやすい。

5. 尖圭コンジローマ 【五類感染症・定点把握】

《定義》

尖圭コンジローマは、ヒトパピローマウイルス (ヒト乳頭腫ウイルス、HPV) の感染により、性器周辺に生じる腫瘍である。ヒトパピローマウイルスは 80 種類以上が知られているが、尖圭コンジローマの原因となるのは主に HPV 6 型と HPV11 型であり、時に HPV16 型の感染でも生じる。

《臨床的特徴》

感染後、数週間から 2～3 カ月を経て、陰茎亀頭、冠状溝、包皮、大小陰唇、肛門周囲等の性器周辺部に、イボ状の小腫瘍が多発する。腫瘍は、先の尖った乳頭状の腫瘍が集簇した独特の形をしており、乳頭状、鶏冠状、花キャベツ状等と形容される。尖圭コンジローマ自体は、良性の腫瘍であり、自然に治癒することも多いが、時に癌 (悪性の腫瘍) に移行することが知られている。特に、HPV16、52、58、18 型などに感染した女性の場合、子宮頸部に感染し、子宮頸癌の発癌要因になると考えられている。

6. 淋菌感染症 【五類感染症・定点把握】

《定義》

淋菌 (*Neisseria gonorrhoeae*) による性感染症である。

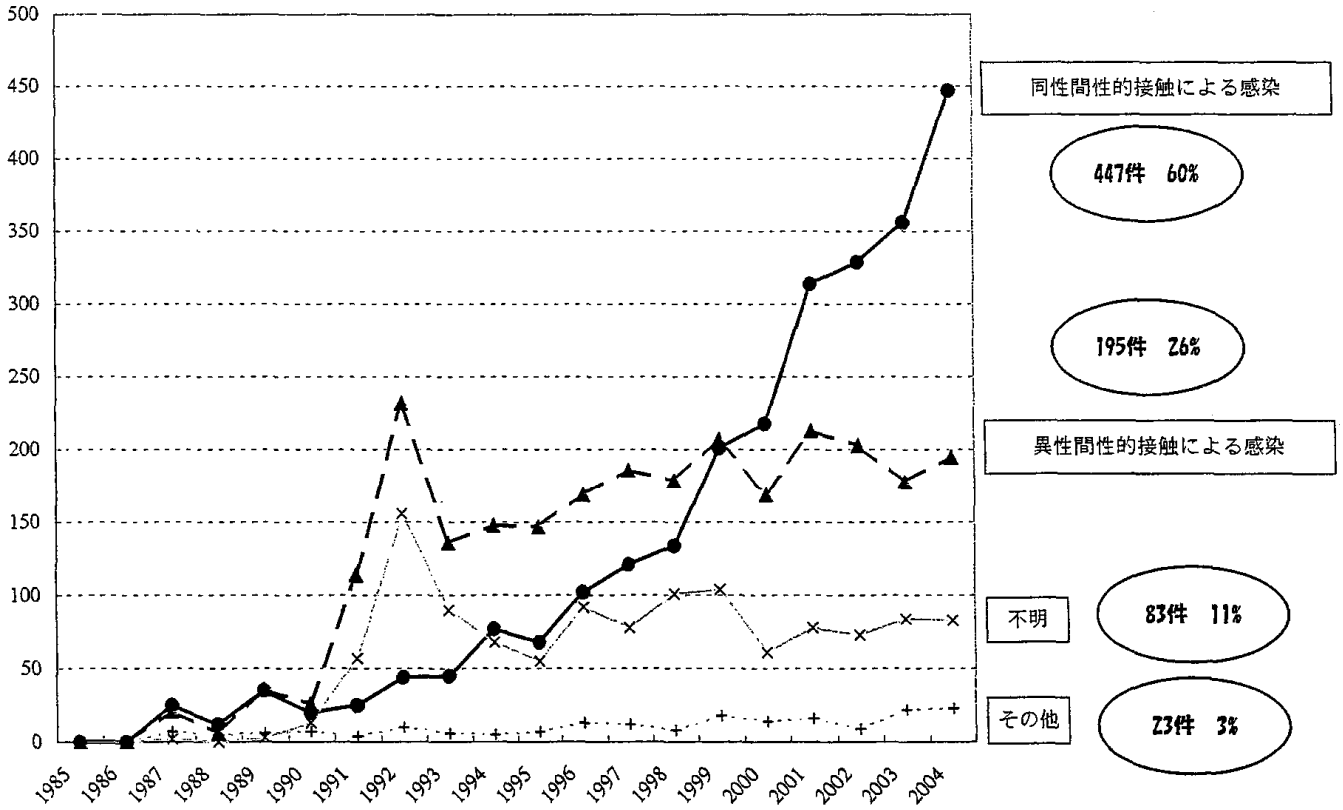
《臨床的特徴》

男性は急性前部尿道炎として発症するのが一般的であるが、放置すると前立腺炎、副睾丸炎となる。後遺症として尿道狭窄が起こる。

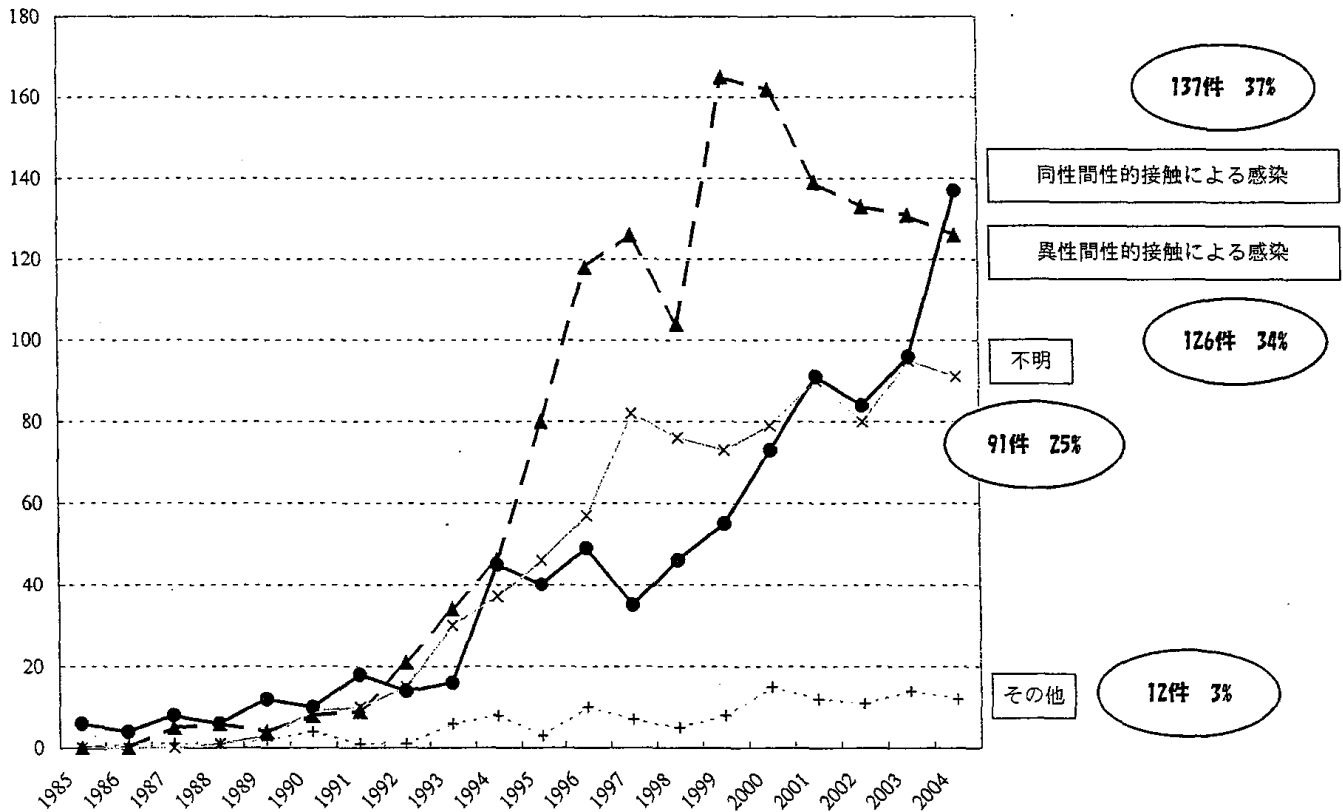
女子は子宮頸管炎を起こすが、自覚症状のない場合が多い。感染が上行すると子宮内膜炎、卵管炎、骨盤内感染症を起こし、発熱、下腹痛を来す。後遺症として不妊症が起きる。

その他、喉頭や直腸などへの感染や新生児結膜炎などもある。

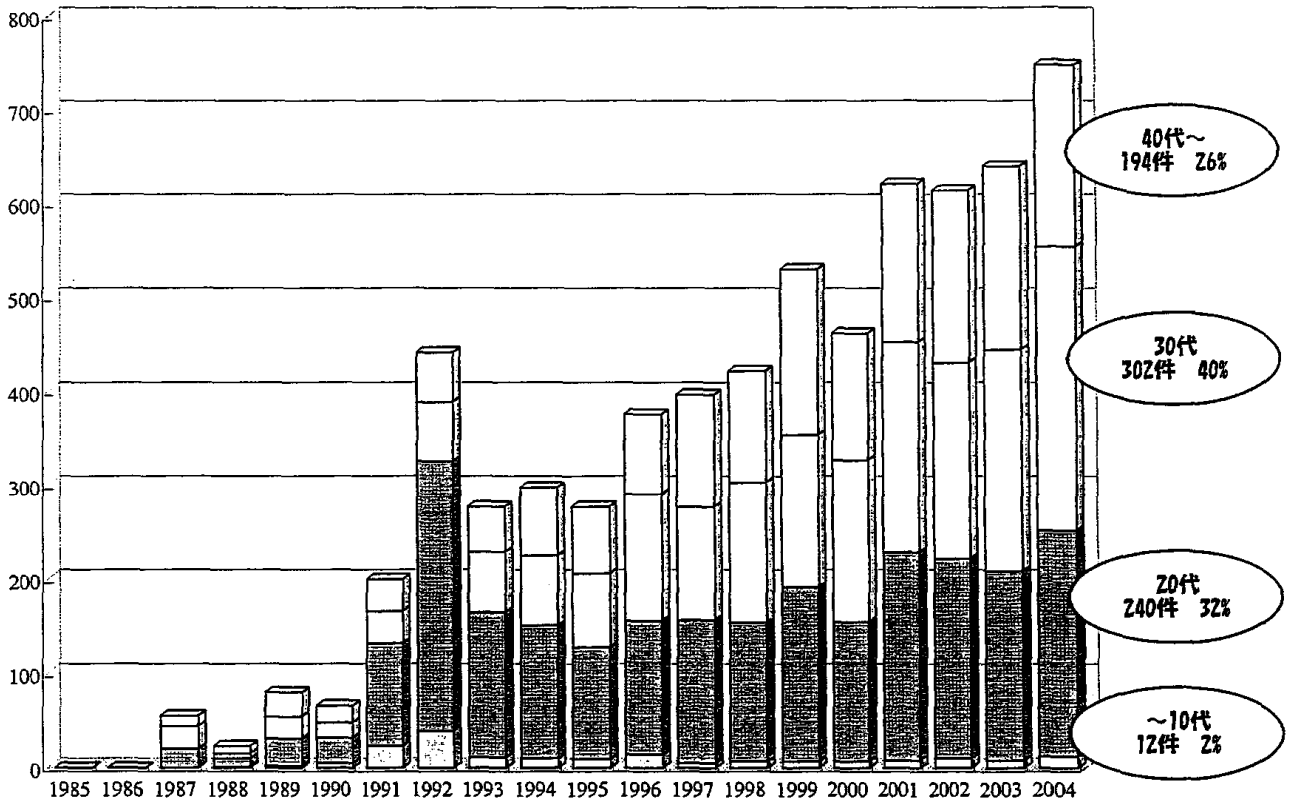
H I V感染者新規報告 感染経路別内訳



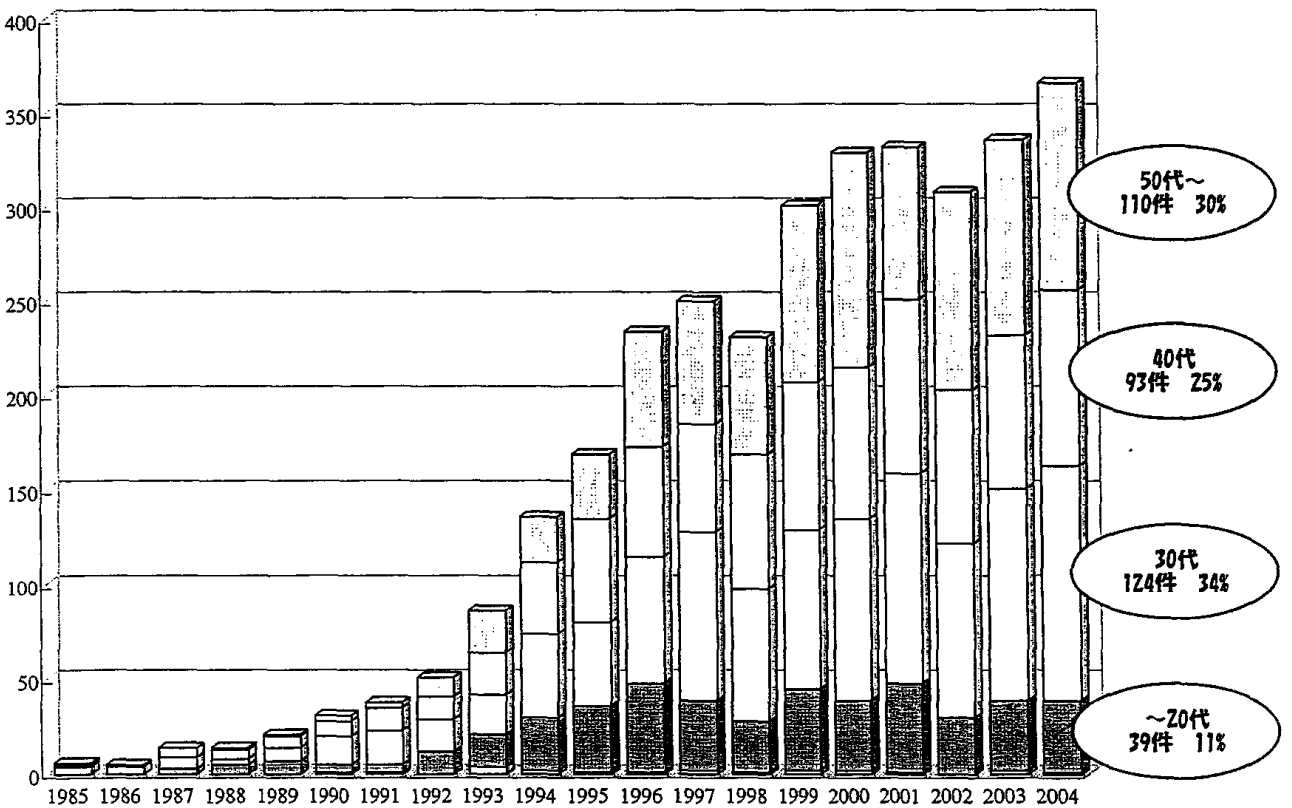
エイズ患者新規報告 感染経路別内訳



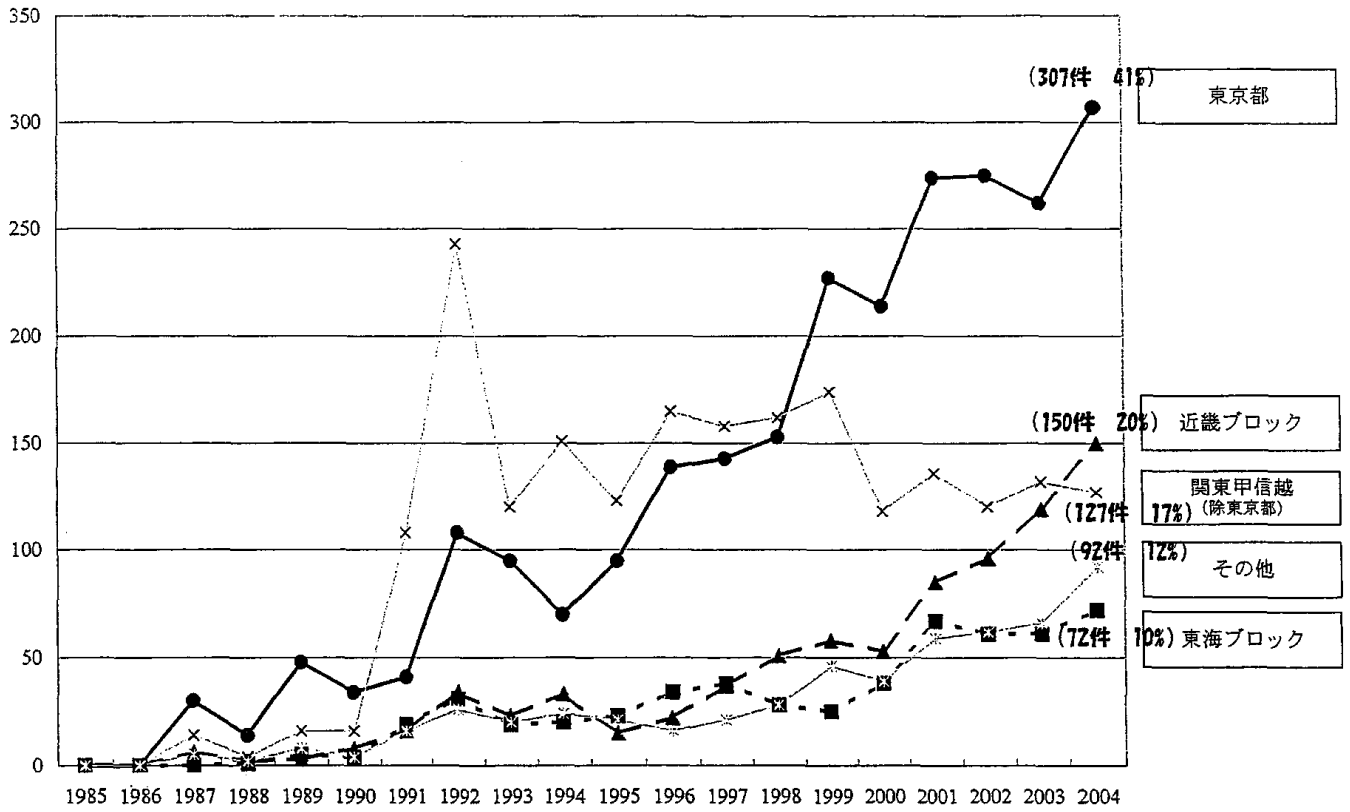
H I V感染者新規報告 年齢別内訳



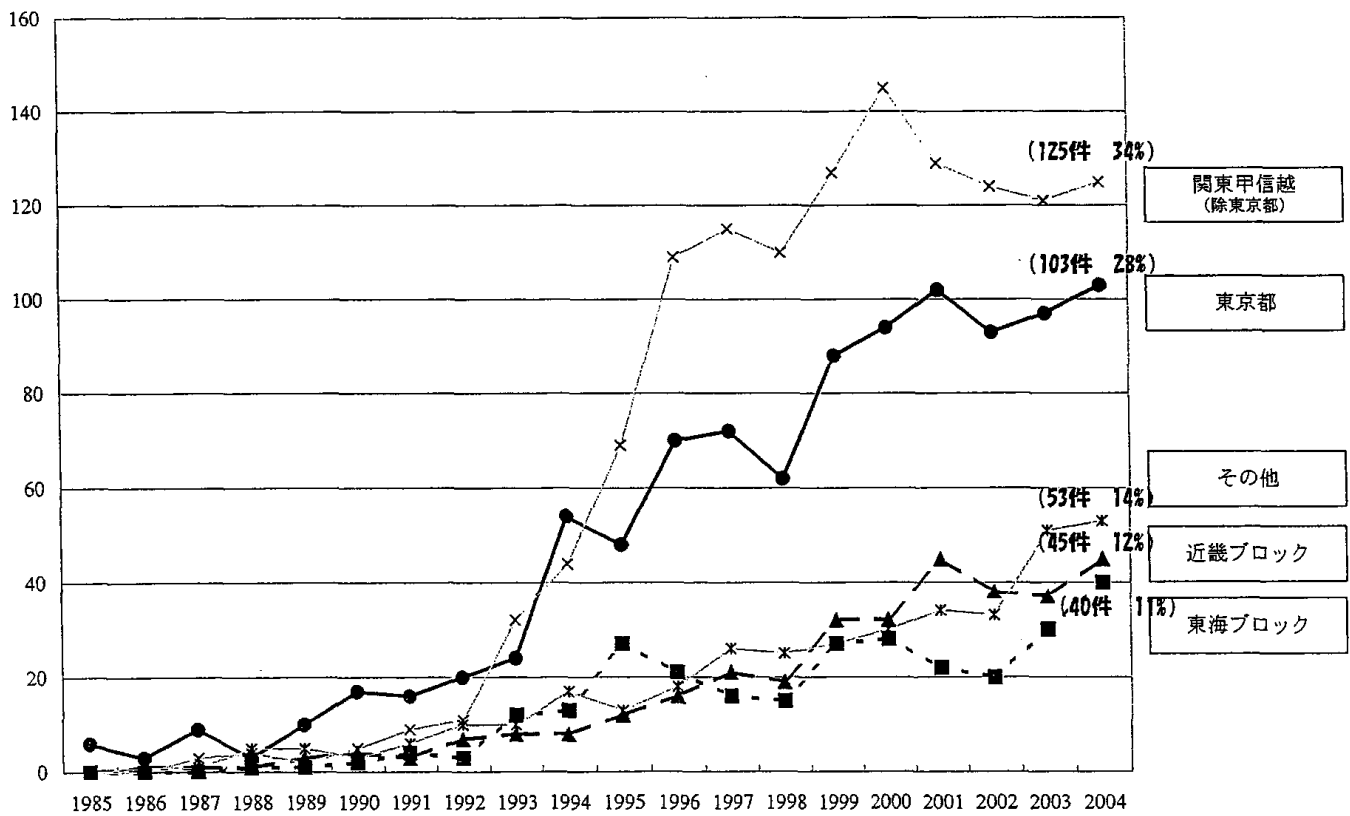
エイズ患者新規報告 年齢別内訳



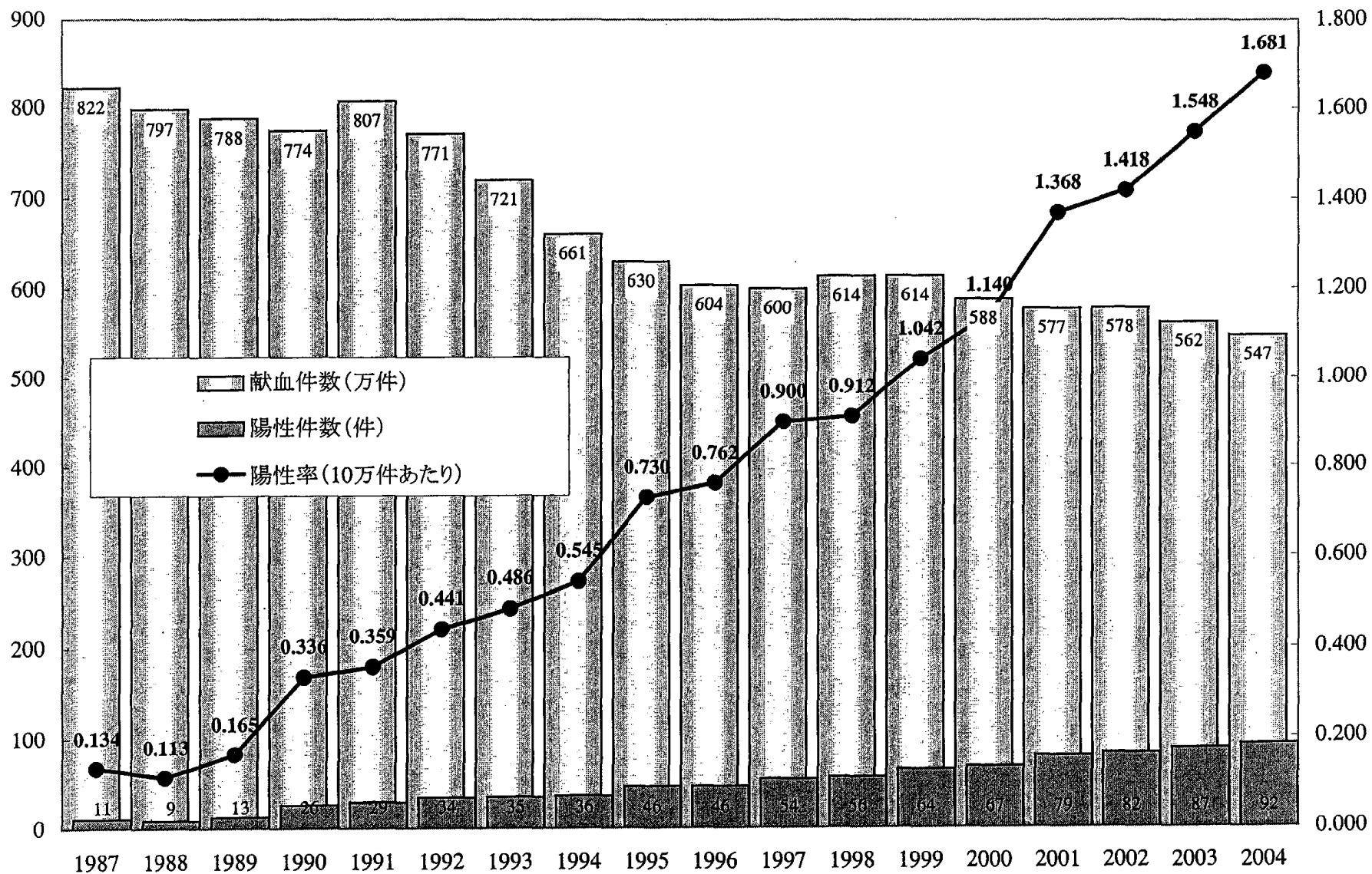
H I V感染者新規報告 報告地別内訳



エイズ患者新規報告 報告地別内訳



献血におけるH I V抗体陽性件数の推移



性感染症発生動向調査による性感染症報告数

定点報告

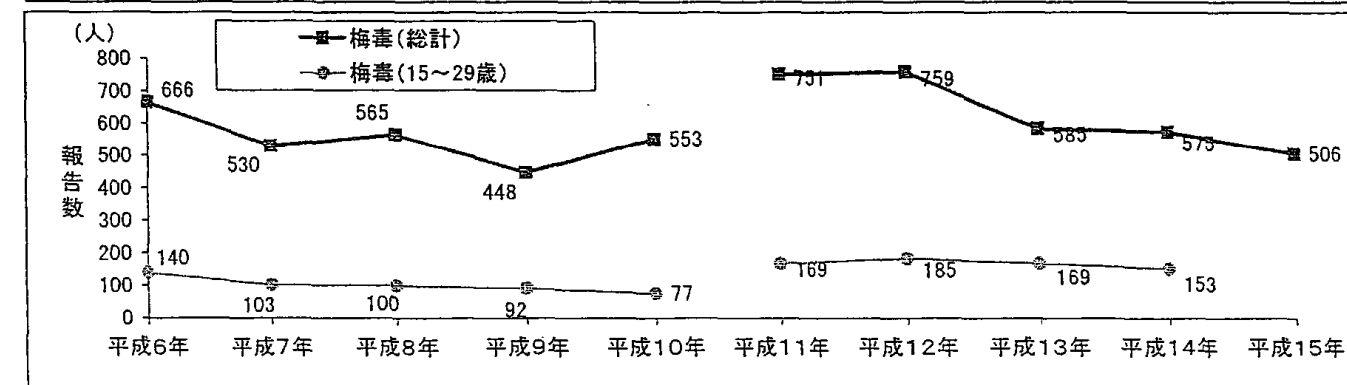
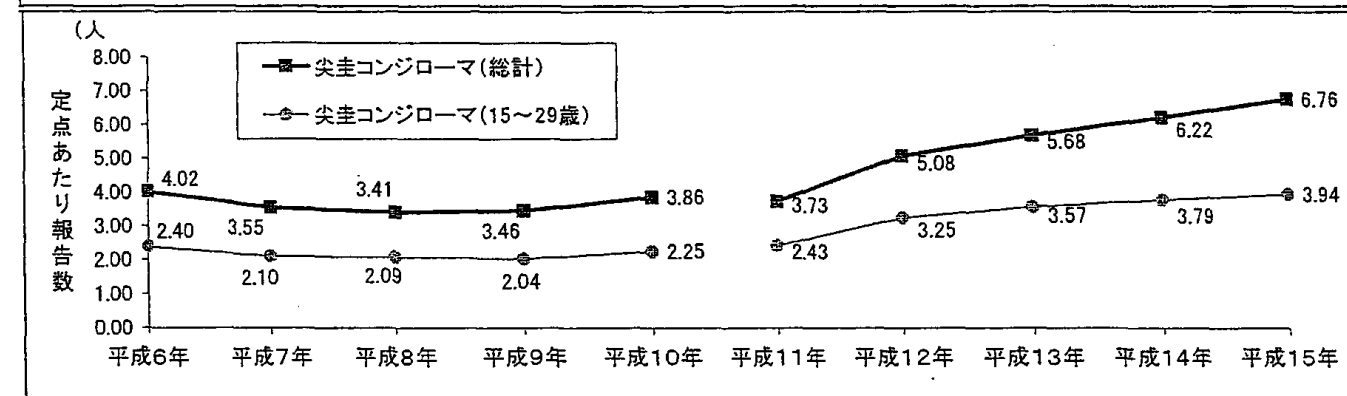
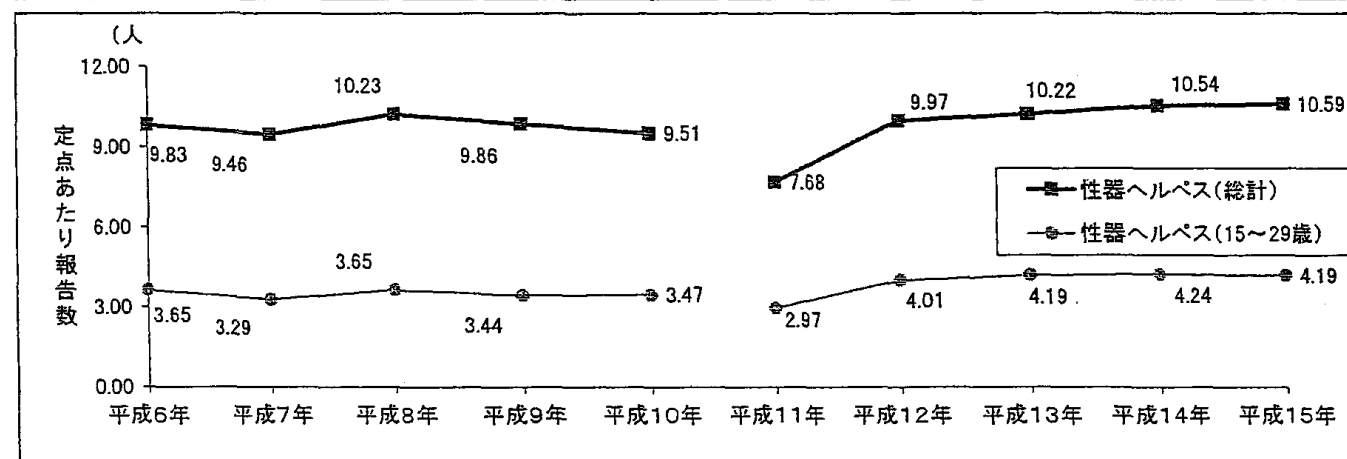
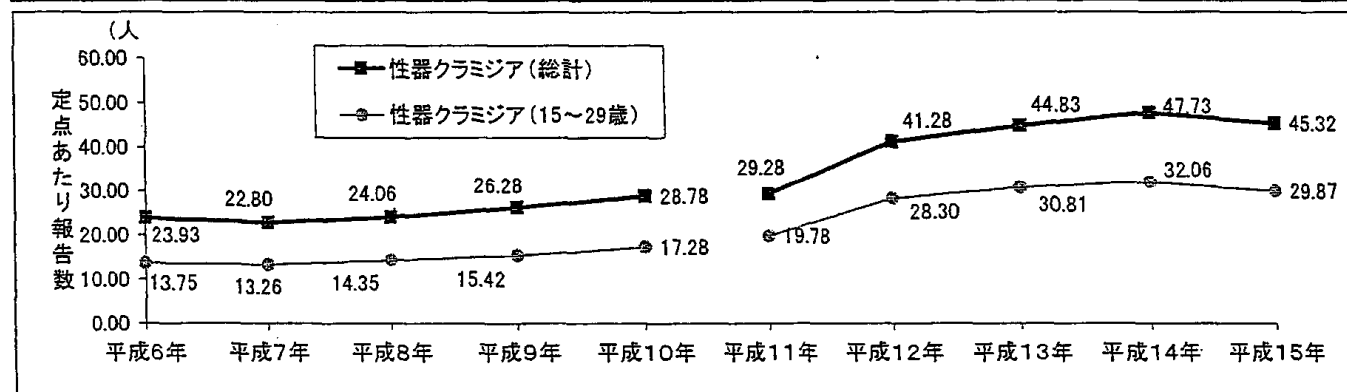
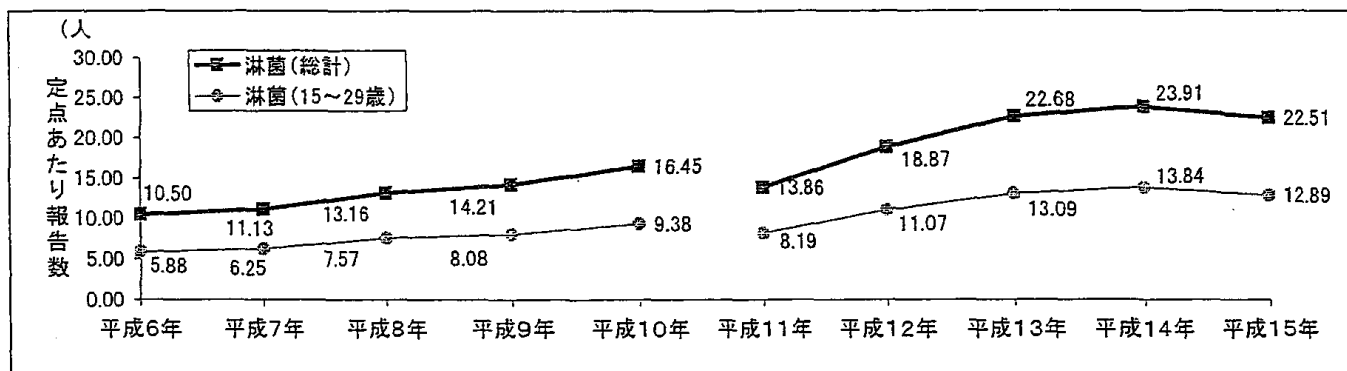
| | 平成2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 7年 | 8年 | 9年 | 10年 | 11年 | | 12年 | 13年 | 14年 | 15年 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | | | | | | | | 1～3月 | 4～12月 | | | | |
| 定点医療機関数 | 585 | 585 | 586 | 596 | 599 | 604 | 604 | 606 | 612 | 610 | 855 | 897 | 911 | 917 | 920 |
| 淋菌感染症 総数 | 14,003 | 15,218 | 10,723 | 6,723 | 6,288 | 6,720 | 7,949 | 8,609 | 10,070 | 2,667 | 11,847 | 16,926 | 20,662 | 21,921 | 20,697 |
| 男 | 12,657 | 13,566 | 9,224 | 5,797 | 5,516 | 5,953 | 6,988 | 7,711 | 8,890 | 2,363 | 10,115 | 14,196 | 17,205 | 17,591 | 16,170 |
| 女 | 1,346 | 1,652 | 1,499 | 926 | 772 | 767 | 961 | 898 | 1,180 | 304 | 1,732 | 2,730 | 3,457 | 4,330 | 4,527 |
| 性器クラミジア 総数 | 13,415 | 14,913 | 15,258 | 13,787 | 14,332 | 13,771 | 14,534 | 15,923 | 17,614 | 4,433 | 25,033 | 37,028 | 40,836 | 43,766 | 41,945 |
| 男 | 9,755 | 9,897 | 8,993 | 7,711 | 7,993 | 7,762 | 7,984 | 8,974 | 9,617 | 2,327 | 11,007 | 15,856 | 17,497 | 18,284 | 17,725 |
| 女 | 3,660 | 5,016 | 6,265 | 6,076 | 6,339 | 6,009 | 6,550 | 6,949 | 7,997 | 2,106 | 14,026 | 21,172 | 23,339 | 25,482 | 24,220 |
| 性器ヘルペス 総数 | 5,649 | 5,746 | 5,980 | 5,753 | 5,887 | 5,715 | 6,177 | 5,977 | 5,819 | 1,378 | 6,566 | 8,946 | 9,314 | 9,666 | 9,832 |
| 男 | 3,472 | 3,500 | 3,605 | 3,392 | 3,161 | 3,152 | 3,131 | 3,010 | 3,014 | 712 | 2,975 | 3,907 | 3,957 | 4,074 | 4,075 |
| 女 | 2,177 | 2,246 | 2,375 | 2,361 | 2,726 | 2,563 | 3,046 | 2,967 | 2,805 | 666 | 3,591 | 5,039 | 5,357 | 5,592 | 5,757 |
| 尖圭コンジローマ 総数 | 4,112 | 4,005 | 3,724 | 2,832 | 2,409 | 2,147 | 2,060 | 2,099 | 2,360 | 577 | 3,190 | 4,553 | 5,178 | 5,701 | 6,253 |
| 男 | 3,249 | 3,091 | 2,808 | 2,092 | 1,692 | 1,421 | 1,379 | 1,425 | 1,598 | 385 | 1,820 | 2,511 | 2,814 | 3,044 | 3,299 |
| 女 | 863 | 914 | 916 | 740 | 717 | 726 | 681 | 674 | 762 | 192 | 1,370 | 2,042 | 2,364 | 2,657 | 2,954 |

全数調査

| | 平成2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 7年 | 8年 | 9年 | 10年 | 11年 | | 12年 | 13年 | 14年 | 15年 |
|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------|-----|-----|-----|-----|
| | | | | | | | | | | 1～3月 | 4～12月 | | | | |
| 梅毒 総数 | 1,877 | 1,494 | 1,055 | 804 | 666 | 530 | 565 | 448 | 553 | 147 | 751 | 759 | 585 | 575 | 509 |
| 男 | 1,105 | 866 | 614 | 466 | 409 | 367 | 369 | 296 | 418 | 94 | 482 | 512 | 400 | 395 | 388 |
| 女 | 772 | 628 | 441 | 338 | 257 | 163 | 196 | 152 | 135 | 53 | 269 | 247 | 185 | 180 | 121 |

※注 平成11年3月以前については性病予防法に基づく届出、平成11年4月以降については感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づく届出であり、報告に係る届出医療機関数の質・量が異なる。

資料：定点調査については、「感染症サーベイランス事業年報」（平成11年3月以前）、「感染症発生動向調査」（平成11年4月以降）
全数調査については、「伝染病統計」（平成11年3月以前）、「感染症発生動向調査」（平成11年4月以降）



注:平成11年の数値については、4月から12月までの数値である。
 平成15年は概数であり梅毒の年齢別については集計中である。
 資料:感染症サーベイランス事業年報(平成10年以前)、感染症発生動向調査(平成11年以降)